

H27 シカ年度 遺産地域内エゾシカ個体数調整実施結果

<全体>

- ・遺産地域内で合計 209 頭（オス成獣 57 頭、メス成獣 100 頭、0 歳 52 頭）を捕獲。

1. ルサ - 相泊地区

<概要>

- ・羅臼町ルサ川左岸～相泊の約 8 km の範囲内の 3 カ所において囲いわな及び流し猟式シャープシューティング（以下、流し猟式 SS）によるシカ捕獲を実施。
- ・計 79 頭（オス成獣 25 頭、メス成獣 41 頭、0 歳 13 頭）を捕獲。

実行計画目標値 210 頭（未達成）

<結果> 表 1-2-1、1-2-2

1) ルサ囲いわな（6 年目）

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわな（既設）による捕獲を、平成 28 年 1 月 13 日～4 月 30 日までの 108 日間実施。
- ・16 頭（うちメス成獣 4 頭；25%）を捕獲。

実行計画目標値 30 頭(未達成)

2) 相泊囲いわな（3 年目）

- ・アイドマリ川左岸に小型囲いわなを再設置。自動落下式ゲートを用いた捕獲を平成 28 年 1 月 28 日～3 月 25 日までの 57 日間実施。
- ・32 頭（うちメス成獣 17 頭；53.1%）を捕獲。

実行計画目標値 120 頭（未達成）

3) 北浜～相泊の流し猟式 SS（5 年目）

- ・平成 27 年 12 月 25 日～平成 28 年 4 月 24 日の 122 日間（※餌づけ期間）に流し猟式 SS を 6 回実施。
- ・31 頭（うちメス成獣 20 頭；64.5%）を捕獲した。

実行計画目標値 60 頭（未達成）

表 1-2-1. H27 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲実施スケジュール

	12月	1月	2月	3月	4月
囲いわな ルサ	12/23～餌づけ誘引口		1/13～	わな稼働期間	～4/30
囲いわな 相泊	1/9～囲いわな設置工事着工 ～1/18囲いわな完成		1/28～	わな稼働期間	～3/25
流し猟式SS 北浜～相泊	12/25～餌づけ誘引			3月3回	4月3回

※流し猟式 SS の灰色部分は、餌付けのみ実施した期間を示している。

表 1-2-2. H27 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス 成獣	メス 成獣	0歳	計
囲いわな	ルサ	9	4	3	16
	相泊	9	17	6	32
流し猟式シャープ シューティング	北浜～相泊	7	20	4	31
合計		25	41	13	79

<捕獲効率> 図 1-2-1、表 1-2-3

- ・1日あたりの最大捕獲頭数は、ルサ囲いわな2頭（1月14日、3月11、15日、4月10日）、相泊囲いわな8頭（2月19日・扉閉鎖2回分）、流し猟式SS13頭（4月24日）であった。
- ・ルサ囲いわな（6シーズン目）は、捕獲頭数および捕獲効率ともに、昨シカ年度よりも減少。
- ・相泊囲いわな（3シーズン目）は、捕獲頭数および捕獲効率ともに、前回捕獲を実施できた1シーズン目よりも減少。
- ・流し猟式SS（5シーズン目）は、捕獲頭数および捕獲効率ともに、待ち伏せ式から流し猟式に手法を変更してから最低。

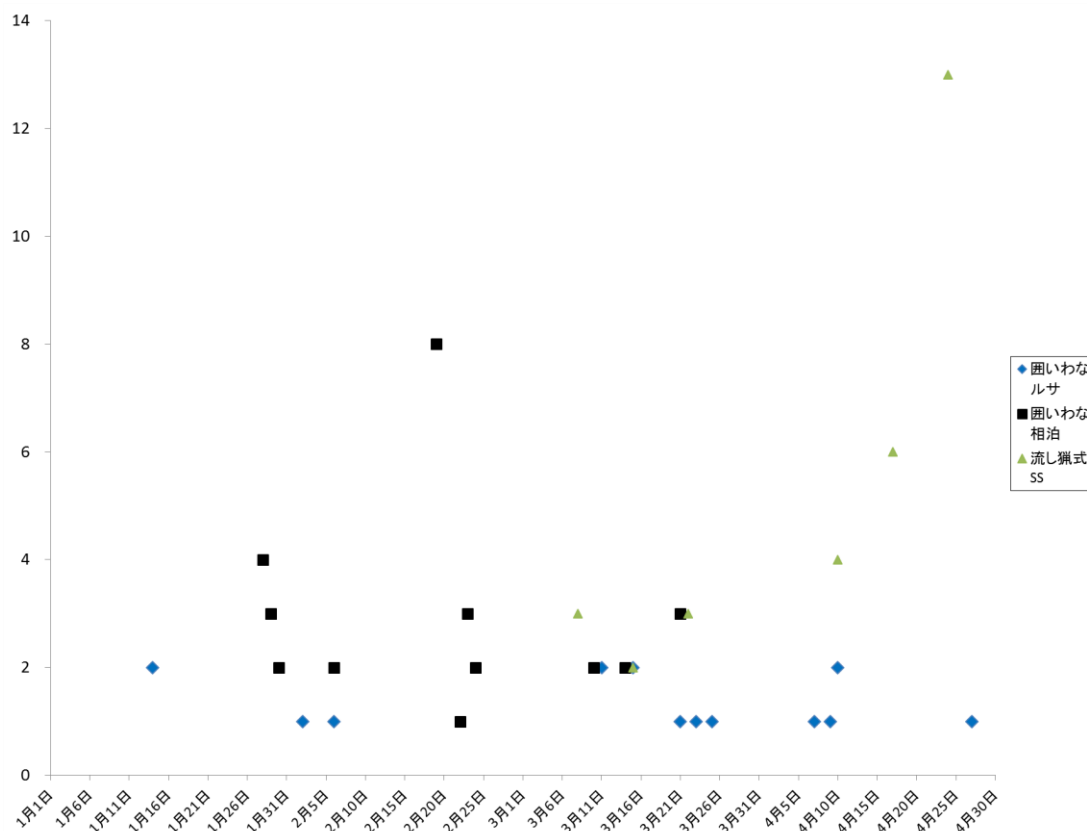


図 1-2-1. ルサー相泊地区における H27 シカ年度の手法及び場所別の各日のエゾシカ捕獲結果

表 1-2-3. ルサー相泊地区における捕獲効率のシカ年度間比較

シカ年度	ルサ罠いわな		相泊罠いわな		ルサー相泊SS		捕獲方式
	搬出頭数*	捕獲効率 ^a	搬出頭数*	捕獲効率 ^a	捕獲頭数	捕獲効率 ^b	
H21					23	0.7	待ち伏せ式
H22	100	1.0			24	0.4	待ち伏せ式
H23	91	1.4			53	3.1	流し猟式
H24	17	0.3			61	4.1	流し猟式
H25	14	0.1	116	1.8	78	3.5	流し猟式
H26	36	0.4			52	3.0	流し猟式
H27	16	0.2	32	0.6	31	2.6	流し猟式
合計	274		148		322		

* 搬出頭数: 脱走個体や意図的に再放逐した個体を除く、生態系から除去した頭数
 ・捕獲効率^a: 1わな日(罠いわなの有効稼働日)あたりのシカ搬出頭数(頭/日)
 ・捕獲効率^b: 射手待機1時間あたりのシカ捕獲頭数(頭/時間)

<まとめ>

実行計画目標値を達成できなかった理由としては、捕獲対象となるシカの数が増加したことに加え、少雪により天然の餌資源が例年に比べ利用しやすかったため、餌付け誘引効果が薄れたことが考えられる。

1) ルサ囲いわな

- ・ H27 シカ年度は、捕獲頭数・捕獲効率ともに昨シカ年度から減少。ただし記録的な豪雪が捕獲数増加に影響したと思われる昨シカ年度より前の2年間とは同水準の捕獲頭数・捕獲効率を維持。
- ・ 3月30日に囲いわな内にヒグマが進入した痕跡を確認。

2) 相泊囲いわな

- ・ H27 シカ年度は、捕獲を実施できた H25 シカ年度と比較して、捕獲頭数・捕獲効率ともに減少。
- ・ 比較的積雪が少なく、地表面の草本が掘り出しやすいアイドマリ川左岸の南向き斜面に姿を現す群れを捕獲対象としたが、今シカ年度は雪が少なく、シカが囲いわな内の餌にあまり執着しなかった可能性が高い。

3) 流し猟式 SS

- ・ 道道山側の法面工事が行われていたため、捕獲は3月3回、4月3回の計6回のみ実施。
- ・ 1月中旬から2月末まで、捕獲実施区間にシカが出現しなくなった（高標高の風衝地に移動？）。
- ・ 3月以降シカの出現頭数が徐々に増加。4月下旬に最も多くなった。
- ・ 捕獲実施時間を昨シカ年度より全体的に遅らせたことで、シカの出現が多くなる日没間際の捕獲が可能となった。今後は4月の捕獲では、日没時間の遅れに合わせて更に遅い時間帯の捕獲も検討すべきである。

2. 幌別 - 岩尾別地区

<概要>

- ・斜里町幌別ー岩尾別地区において、平成 28 年 1～5 月に 3 カ所で捕獲を実施。
- ・計 **106 頭**（オス成獣 23 頭、メス成獣 49 頭、0 歳 34 頭）を捕獲。

実行計画目標値 130 頭（未達成）

<結果> 表 1-2-4、1-2-5

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな（3 年目）

- ・平成 28 年 1 月 7 日～5 月 31 日の 146 日間に 23 回の捕獲作業を実施、うち 14 回成功。
- ・**32 頭**（うちメス成獣 9 頭；28.1%）を捕獲。

実行計画目標値 20 頭（*達成）

2) 幌別河口囲いわな（3 年目）

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなによる捕獲を、平成 28 年 1 月 29 日～3 月 17 日の 48 日間実施。
- ・**51 頭**（うちメス成獣 28 頭；54.9%）を捕獲。

実行計画目標値 70 頭（未達成）

3) 岩尾別河口の流し猟式 SS（3 年目）

- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの孵化場施設の通路沿線において、平成 28 年 1 月 11 日より餌付け誘引を開始し、2 月に 6 回（1, 4, 8, 15, 18, 25 日）、3 月に 2 回（7, 14 日）、計 8 回捕獲を実施。
- ・**23 頭**（うちメス成獣 12 頭；52.2 %）を捕獲。

実行計画目標値 40 頭（未達成）

表 1-2-4. H27 シカ年度冬期 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲実施状況

	12月	1月	2月	3月	4月	5月
仕切柵	12/26～餌付け誘引期間		1/7～5/31 わな稼働期間			
幌別囲いわな	12/21～1/6施工期間		1/29～3/17 わな稼働期間			
流し猟式SS (岩尾別川)	12/30～餌付け誘引期間		1/11～餌付け誘引期間	2/1～3/14 捕獲8回		

表 1-2-5. H27 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別エゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス成獣	メス成獣	0歳	計
仕切柵	岩尾別地区	15	9	8	32
罠いわな	幌別川河口	5	28	18	51
流し猟式SS	岩尾別川河口 孵化場道路	3	12	8	23
合計		23	49	34	106

<捕獲効率> 図 1-2-2

- ・1日あたりの最大捕獲数は、幌別罠いわな8頭（1月29日）、流し猟SS6頭（2月25日、3月7日）、岩尾別仕切柵が5頭（1月18日、2月1日）であった。
- ・1回あたりの平均捕獲数は、幌別罠いわな3.6頭、流し猟SS2.9頭、岩尾別仕切柵が1.4頭であった。仕切柵は手動捕獲のため、空ぶり（0頭捕獲）が多く捕獲効率が低迷した。
- ・仕切柵は5月以降、罠個体以外の個体が柵内にほとんど進入せず。5月の捕獲はなかった。

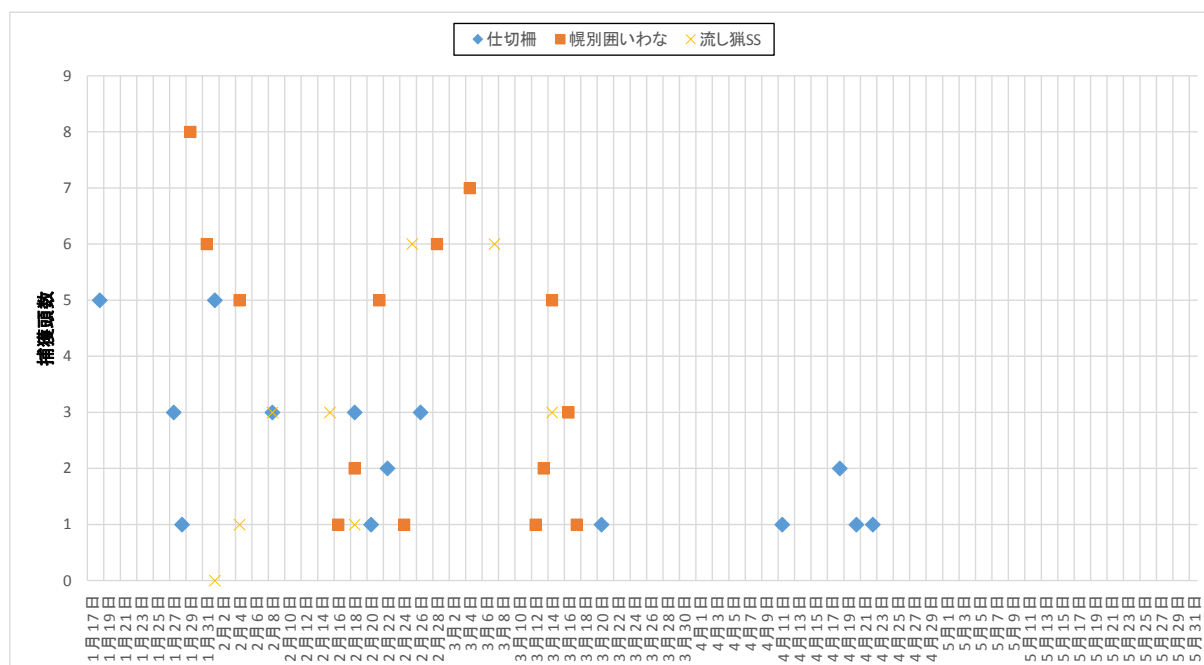


図 1-2-2. H27 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカの日別捕獲状況

<まとめ>

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな

- ・大量捕獲の機会がなく捕獲効率が低迷した。メス成獣の捕獲割合が減少。
- ・自動撮影カメラの記録では、仕切柵内への同時進入頭数は14頭（2月19日）が最多。
- ・最後の捕獲があった4月22日以降、自動カメラによる最多確認数は4頭。そのうち2頭は囚個体だった可能性が高い。
- ・捕獲3年目を終了し、仕切柵周辺を行動圏に含むシカの大部分は既に捕獲してしまった可能性が高い。
- ・仕切柵～岩尾別川河口間には獲り残しの群れが存在。現状の手法のみでは捕獲困難と考えられる。
- ・ヒグマは3月4日以降、仕切柵内外で時々確認されたが、作業に支障なし。

2) 幌別河口囲いわな

- ・捕獲3年目であるが、捕獲効率は極端に低下しなかった。
- ・閉鎖日（3月17日）の数日前より急激に捕獲効率が高くなった。まだ捕獲できる可能性は残っていたが、土地の返却期限が例年より早まったため、やむをえず終了となった。
- ・わなに順化した個体も含め、周辺には多数のシカを獲り残していると考えられる。
- ・見晴橋付近～知床自然センター間の国道法面で採食している群の誘引は困難であり、幌別河口囲いわなのみでは、幌別台地のシカに対して十分な捕獲圧をかけることができていない状況。

3) 流し猟式SS

- ・1月23日頃から、多数のシカが餌場に出現。最大で32頭（2月23日）が餌場に出現。
- ・集まりすぎて射撃できない状況は今シーズンも発生。群の分断が課題。
- ・3月9日に約50頭が河口付近に出現。すなわち今シカ年度の獲り残しは50頭以上。
- ・スマートディア化疑いは15頭。
- ・急斜面林内の個体をもっと積極的に撃つようにするなど、射撃方法に工夫の余地あり。ただし遠距離かつ枝ごしの射撃となるため、今以上の精密射撃が要求される。また川を挟むため死体回収の労力が増える。
- ・捕獲作業中にヒグマの出没はなかったが、3月5日に目撃があり、来冬以降も要警戒。

3. 知床岬地区

<概要>

- ・ H19 シカ年度より 9 シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは 5 シーズン目。流氷期 (3 月) にヘリコプターを使用した 1 泊 2 日の捕獲を 1 回、流氷明け (5 ~ 6 月) に船舶を使用した 2 泊 3 日の捕獲を 2 回実施。
- ・ 計 10 頭 (オス成獣 4 頭、メス成獣 2 頭、0 歳 4 頭) を捕獲。
- ・ 前年 6 月の捕獲数 15 頭 (オス成獣 5 頭、メス成獣 9 頭、0 歳 1 頭) を合わせると H27 シカ年度 (注) の捕獲数は 計 25 頭 (オス成獣 9 頭、メス成獣 11 頭、0 歳 5 頭)。← 注) H28 シカ年度 6 月捕獲分のメス成獣 1 頭を暫定的に含む

<結果等> 表 1-2-6、表 1-2-7、図 1-2-3 ← 図表に H28 シカ年度 6 月分は未反映

- ・ 平成 27 年 6 月 8 日~10 日に射手 5 名+犬で実施。15 頭 (うちメス成獣 9 頭 ; 60%) を捕獲。
- ・ 平成 28 年 3 月 3 日~4 日に 18 名 (射手 15 名+補助 3 名) で実施。
3 頭 (すべてオス成獣) を捕獲。
- ・ 平成 28 年 5 月 18 日~20 日に 6 名 (射手 5 名+補助 1 名+犬) で実施。
6 頭 (うちメス成獣 1 頭 ; 16.7%) を捕獲。
- ・ 平成 28 年 6 月 21 日~23 日に 7 名 (射手 5 名+補助 2 名+犬) で実施。
1 頭 (メス成獣) を捕獲。
- ・ 捕獲数は、昨シカ年度と比較して大幅に減少した。積雪深に関係した岬先端部におけるシカ越冬数の減少が、捕獲効率に大きく影響したと考えられる。
- ・ 9 シーズンで計 823 頭 (うちメス成獣 454 頭) を捕獲。動員射手はのべ 814 人日。
- ・ 同エリアでは捕獲実施前の平成 28 年 2 月 18 日の航空カウントで、63 頭 (前年同期は 130 頭) を確認。
- ・ 捕獲終了時点での岬先端部における推定生息数は 53 頭 (63-10=53)。
- ・ 航空センサスと捕獲実績から算出した推定生息密度 : 16.4 頭/km² *
※先端部地区の面積を 3.23 km²として計算。7 km²で計算すると 7.6 頭/km²。
- ・ 犬による捕獲補助の効果は、計画段階で想定していたような状況が発生しなかったため、十分に検証できなかった。

表 1-2-6. 知床岬におけるエゾシカ捕獲結果一覧 (H19~27 シカ年度)

シカ年度	捕獲頭数	捕獲個体の内訳						巻狩回数	のべ動員 射手
		メス成獣	メス0歳	オス成獣	オス0歳	不明	不明0歳		
H19(1年目)	132	89	10	18	15	0	0	27	203
H20(2年目)	122	76	7	26	13	0	0	17	174
H21(3年目)	158	86	9	47	12	4	0	8	143
H22(4年目)	57	20	4	30	3	0	0	3	96
H23(5年目)	216	133	18	53	11	1	0	3	53
H24(6年目)	32	4	1	26	1	0	0	3	28
H25(7年目)	9	2	1	5	1	0	0	2	25
H26(8年目)	73	34	9	26	3	1	0	3	52
H27(9年目)	24	10	0	9	4	0	1	1	40
総計	823	454	59	240	63	6	1	67	814

※成獣は下顎切歯により、1歳以上と簡易判定された個体を表す。H28年6月捕獲分(メス成獣1頭)は含んでいない。

表 1-2-7. 知床岬におけるエゾシカ捕獲作業の実施状況一覧 (H19~27 シカ年度)

シカ年度	実施時期	捕獲頭数	回収個体数	参加者数 ^{※1}			捕獲実施日数
				射手	補助員	その他	
H19	流水前	33	22	90	5	26	3
	流水後	99	44	113	59	24	12
	1年目合計	132	66	203	64	50	15
H20	流水前	50	10	58	19	2	3
	流水後	72	30	116	45	1	6
	2年目合計	122	40	174	64	3	9
H21	流水前	57	-	21	6	3	1
	流水中	86	-	85	15	5	4
	流水後	15	55	37	20	1	3
3年目合計	158	55	143	41	9	8	
H22	流水中	57	-	90	15	5	4
	流水後	0	10	6	3	1	1
	4年目合計	57	10	96	18	6	5
H23	流水中	131	-	14	-	-	1
	流水後	85	112	39	13	-	2
	5年目合計	216	112	53	13	0	3
H24	流水中	13	-	14	-	-	1
	流水後	19	14	14	9	-	1
	6年目合計	32	14	28	9	0	2
H25	流水後	9	0	25	4	0	2
	7年目合計	9	0	25	4	0	2
	H26	流水中	57	-	15	2	1
流水後		16	H27の6月に回収	37	4	5	5
8年目合計		73		52	6	6	6
H27	6月	15	5(H26分含む)	10	0	0	2
	流水中	3	0	15	3	0	1
	流水後	6	H28の6月に実施予定	15	3	0	3
9年目合計	24	0	40	6	0	6	
総計		823	297	814	225	74	56

※1 射手は銃を持って参加した人員、補助員は銃を持たず捕獲に参加した人員を表す。ただし回収実施日には知床財団職員は回収に専念したため補助員とする。その他は番屋管理や視察等で同行した人員を表す。

※H28年6月21~23日のメス成獣1頭捕獲・1頭回収・射手7名×3日・補助員2名×3日・回収補助員2名×1日は

上記の表1-2-7に未反映

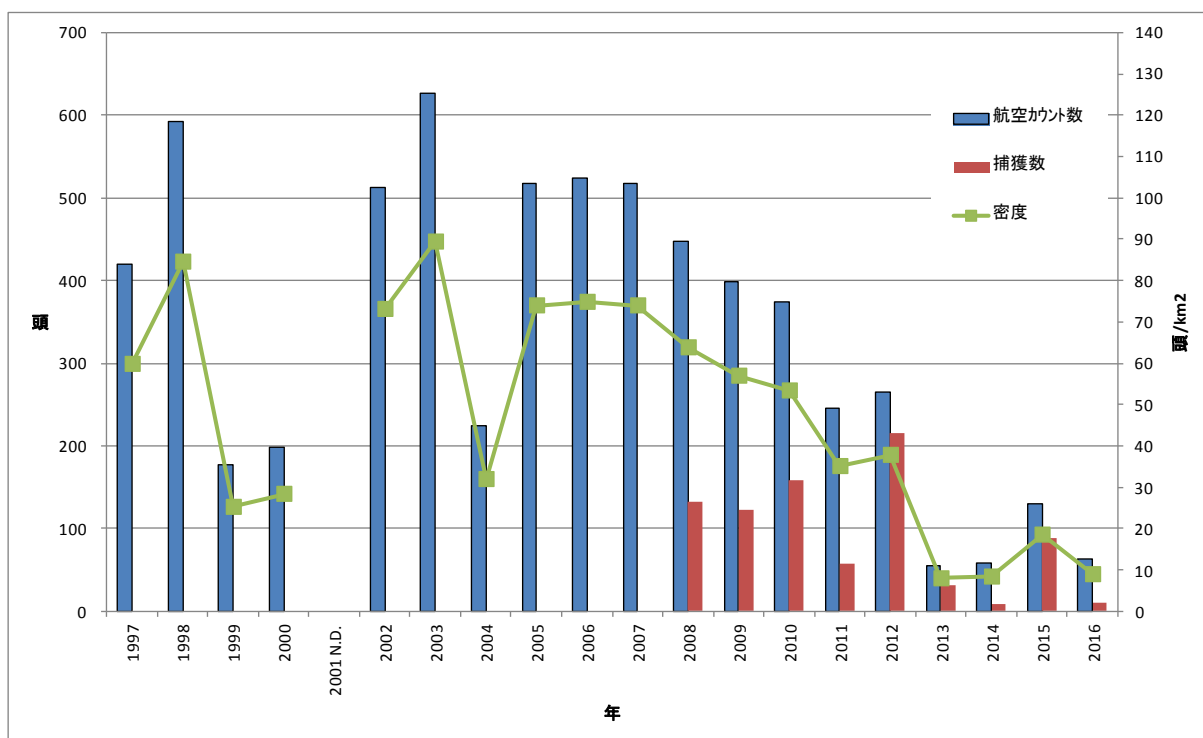


図 1-2-3. 航空カウント調査による知床岬先端部のエゾシカ越冬確認数（捕獲前）と捕獲数の推移
 ※平成 13（2001）年は調査なし

<まとめ>

- ・現状では、日中の仕切柵内にシカがほとんどいないため、日帰り捕獲は不適。流氷期・無積雪期ともに、夕方や早朝の捕獲作業を可能とするため現地泊が必要。
- ・大人数による捕獲は今後、効果が薄いと考えられる。
- ・少人数での宿泊捕獲を複数回実施する事で、数頭ずつ削っていく方法が現実的と考えられる。